

高齢者のいる世帯

【高齢者のいる主世帯】65歳以上の者がいる主世帯のことで、次の三つの型に区分される
主世帯……………1住宅に1世帯が住んでいる場合はその世帯を主世帯とし、2世帯以上住んでいる場合は
そのうちの主な世帯を主世帯とする。

高齢単身主世帯…65歳以上の単身者のみの主世帯

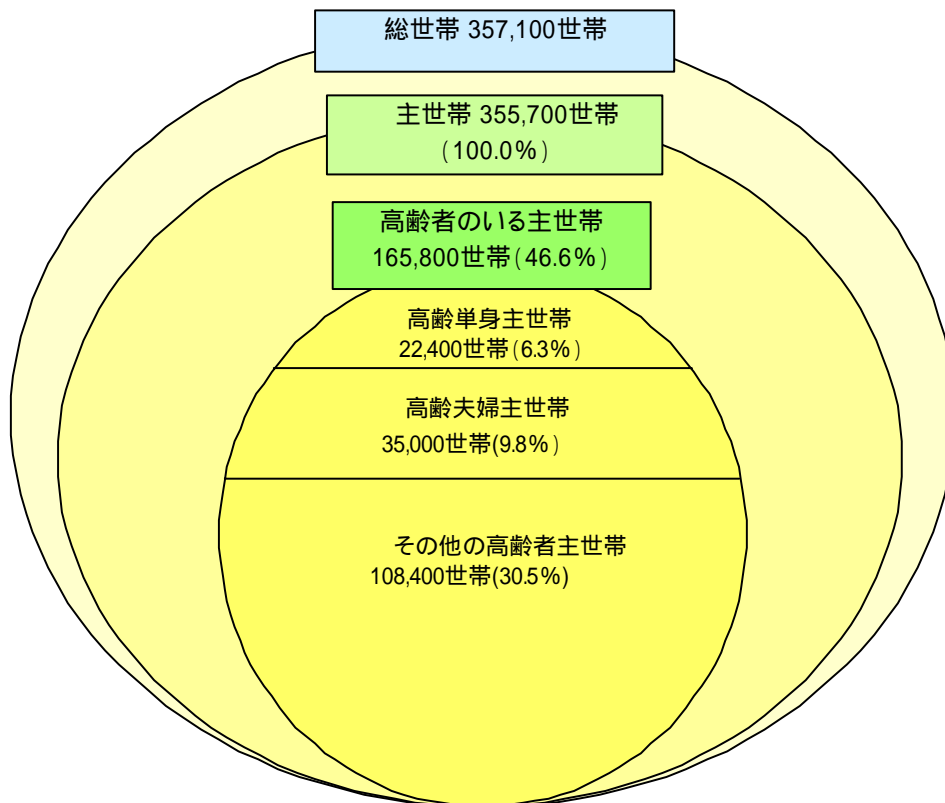
高齢夫婦主世帯…夫婦とも、もしくは、いずれか一方が65歳以上の者のみの夫婦一組のみの主世帯

その他の高齢者主世帯…高齢者のいる主世帯から上記の、を除いたもの

1 高齢者のいる世帯

増加する高齢者のみの世帯

図7 世帯の関係図（平成15年）



高齢者のいる主世帯は165,800世帯で、前回（平成10年）の151,900世帯と比べると13,900世帯（9.2%）の増加となった。主世帯総数に占める割合は46.6%となり、平成10年の45.0%より1.6ポイント上昇している。

世帯の型別に前回からの増加率をみると、高齢単身主世帯が37.4%、高齢夫婦主世帯が25.9%、その他の高齢者主世帯が0.6%となっており、高齢単身主世帯と高齢夫婦主世帯の増加が著しい。

また、高齢単身主世帯と高齢夫婦主世帯を合わせると57,400世帯となり、高齢者のいる主世帯全体の34.6%を占めている。これは前回の29.0%と比べると、5.6ポイントの上昇となり、高齢者のいる主世帯の数が増加を続けるなか、高齢者のみの世帯の増加が大きいことを示している。

（図7、表3）

表3 高齢者のいる主世帯の状況(平成10、15年)

	平成15年	平成10年	増加数 (H15-H10)	増加率(%) (H10~H15)
実数(世帯)				
主世帯総数	355,700	337,400	18,300	5.4
高齢者のいる主世帯	165,800	151,900	13,900	9.2
高齢単身主世帯	22,400	16,300	6,100	37.4
高齢夫婦主世帯	35,000	27,800	7,200	25.9
その他の高齢者主世帯	108,400	107,800	600	0.6
割合(%)				
主世帯総数	100.0	100.0
高齢者のいる主世帯	46.6	45.0
高齢単身主世帯	6.3	4.8
高齢夫婦主世帯	9.8	8.2
その他の高齢者主世帯	30.5	32.0

2 高齢者世帯の住宅所有状況

高齢者のいる主世帯では95%が持ち家に居住

高齢者のいる主世帯について、住宅の所有の関係別割合をみると、持ち家が95.3%、借家が4.7%となっており、主世帯全体(持ち家79.6%、借家20.0%)に比べ、持ち家の割合がかなり高くなっている。このうち、高齢夫婦主世帯の持ち家の割合は94.9%、その他の高齢者主世帯が97.8%であるのに対して、高齢単身主世帯の持ち家の割合は83.9%と相対的に低く、借家に住んでいる割合が16.1%となっている。(表4)

表4 住宅の所有の関係別高齢者のいる主世帯数(平成10、15年)

	平成15年			平成10年		
	総数 1)	持ち家	借家	総数 1)	持ち家	借家
実数(世帯)						
主世帯総数	355,700	283,200	71,200	337,400	272,000	64,800
高齢者のいる主世帯	165,800	158,000	7,800	151,900	146,500	5,400
高齢単身主世帯	22,400	18,800	3,600	16,300	13,600	2,700
高齢夫婦主世帯	35,000	33,200	1,800	27,800	26,700	1,100
その他の高齢者主世帯	108,400	106,000	2,400	107,800	106,200	1,600
割合(%)						
主世帯総数	100.0	79.6	20.0	100.0	80.6	19.2
高齢者のいる主世帯	100.0	95.3	4.7	100.0	96.4	3.6
高齢単身主世帯	100.0	83.9	16.1	100.0	83.4	16.6
高齢夫婦主世帯	100.0	94.9	5.1	100.0	96.0	4.0
その他の高齢者主世帯	100.0	97.8	2.2	100.0	98.5	1.5

1) 住宅の所有の関係「不詳」を含む。

3 高齢者が住んでいる場所

高齢単身普通世帯の 20.2%、高齢夫婦普通世帯の 25.6%が、子が片道 15 分未満の場所に住んでいる

表 5 別世帯の子が住んでいる場所別高齢単身・高齢夫婦普通世帯数(北陸 3 県)(平成 15 年)

	総数 1)	別世帯となっている子がいる						別世帯の子はいない
		総数	同じ建物・敷地内など(「一緒に住んでいる」を含む。)	徒歩5分程度の場所に住んでいる	片道15分未満の場所に住んでいる	片道1時間未満の場所に住んでいる	片道1時間以上の場所に住んでいる	
実数(世帯)								
富山県								
高齢単身普通世帯	22,400	15,500	400	1,300	2,800	5,400	5,700	5,700
高齢夫婦普通世帯	35,100	28,200	900	2,800	5,300	8,700	10,600	6,100
石川県								
高齢単身普通世帯	25,500	17,600	500	1,800	3,200	5,300	7,000	6,200
高齢夫婦普通世帯	36,900	30,000	1,800	3,200	5,200	7,500	12,200	5,600
福井県								
高齢単身普通世帯	15,400	10,400	300	900	2,100	3,200	4,000	4,100
高齢夫婦普通世帯	22,100	18,200	1,200	2,100	3,300	5,000	6,500	3,200
割合(%)								
富山県								
高齢単身普通世帯	100.0	69.2	1.8	5.8	12.5	24.1	25.4	25.4
高齢夫婦普通世帯	100.0	80.3	2.6	8.0	15.1	24.8	30.2	17.4
石川県								
高齢単身普通世帯	100.0	69.0	2.0	7.1	12.5	20.8	27.5	24.3
高齢夫婦普通世帯	100.0	81.3	4.9	8.7	14.1	20.3	33.1	15.2
福井県								
高齢単身普通世帯	100.0	67.5	1.9	5.8	13.6	20.8	26.0	26.6
高齢夫婦普通世帯	100.0	82.4	5.4	9.5	14.9	22.6	29.4	14.5

1) 別世帯となっている子の居住地「不詳」を含む。

65歳以上の単身普通世帯 22,400 世帯について、別世帯の子供がどこに住んでいるかをみると、同じ建物や同じ敷地内に住んでいる世帯が 400 世帯、徒歩 5 分程度の場所に住んでいる世帯が 1,300 世帯、これに片道 15 分未満の場所に住んでいる世帯を加えると 4,500 世帯となり、単身で生活している高齢者の 5 人に 1 人が、別世帯の子は片道 15 分未満の場所に住んでいる。

また、夫婦のいずれか一方が 65 歳以上の夫婦普通世帯 35,100 世帯では、別世帯の子が同じ建物や同じ敷地内に住んでいる世帯が 900 世帯、徒歩 5 分程度の場所に住んでいる世帯が 2,800 世帯、これに片道 15 分未満の場所に住んでいる世帯を加えると 9,000 世帯となり、高齢夫婦普通世帯の 4 世帯に 1 件が、別世帯の子は片道 15 分未満の場所に住んでいる。

これを北陸 3 県で比較すると、本県では、高齢単身普通世帯においては、15 分未満の場所に住んでいる割合は 20.1% (石川県 21.6%、福井県 21.3%) と最も小さいが、1 時間未満の場所に住んでいる割合は 44.2% (石川県 42.4%、福井県 42.1%) と最も大きくなった。一方、高齢夫婦普通世帯においては、「同じ建物・敷地内など(「一緒に住んでいる」を含む。)」が 2.6% (石川県 4.9%、福井県 5.4%) と最も小さく、「別世帯の子はいない」が 17.4% (石川県 15.2%、福井県 14.5%) と最も大きい。(表 5)

また、本県の状況を平成10年と比べると、高齢单身普通世帯では、別世帯の子が片道1時間未満の場所に住んでいる割合は39.9%から44.2%へと増加し、片道1時間以上の場所に住んでいる割合は31.3%から25.4%へと減少した。夫婦のいずれか一方が65歳以上の普通世帯では、別世帯の子が片道1時間未満のところに住んでいる割合は、43.9%から50.5%へと増加し、片道1時間以上の場所に住んでいる割合は32.4%から30.2%へと減少した。(図8-1、2)

図8-1 別世帯の子が住んでいる場所別割合(高齢单身普通世帯)(平成10、15年)

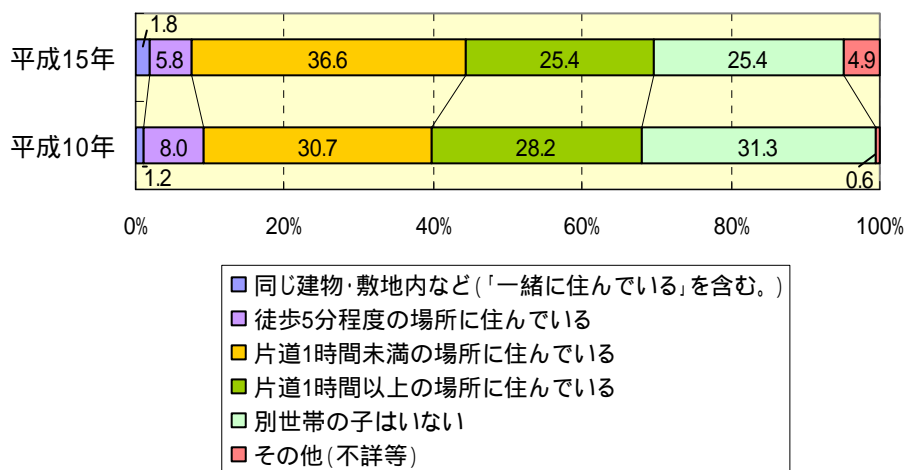
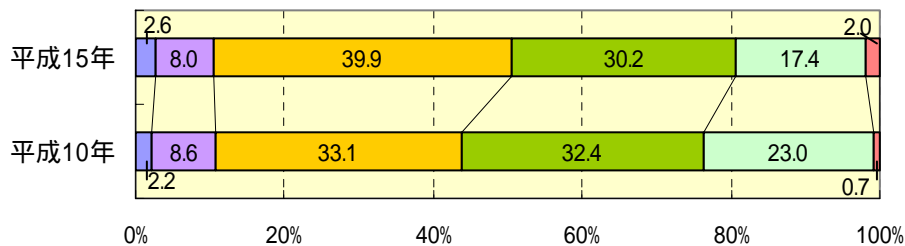


図8-2 別世帯の子が住んでいる場所別割合(高齢夫婦普通世帯)(平成10、15年)



4 高齢者等のための設備工事

高齢者等のための設備工事をした世帯は14.7%

持ち家に居住する主世帯について、平成11年以降の高齢者や身体障害者などのための設備の工事(将来の備えを含む。)の状況を見ると、工事をした世帯が41,700世帯で、主世帯全体の14.7%を占めている。このうち、高齢者のいる主世帯において工事をしたのは29,300世帯で、高齢者のいる主世帯全体の18.5%となっており、高齢者のいる主世帯の方が工事をした割合が高い。

工事をした世帯について、工事の箇所別内訳を見ると、トイレの和式から洋式への改修といったトイレの工事が9.1%と最も多くなっており、次いで、浴室の工事が7.0%、階段や廊下の手すりの設置が5.5%、屋内の段差の解消が3.5%となっている。(表6)

表6 平成11年以降の高齢者等のための設備の工事状況別持ち家に居住する主世帯(平成15年)

	総数	65歳以上の世帯員のいる世帯
実数(戸)		
持ち家に居住する主世帯総数	283,200	158,000
工事した ¹⁾	41,700	29,300
階段や廊下の手すりの設置	15,600	10,500
屋内の段差の解消	9,800	5,300
浴室の工事	19,700	13,100
トイレの工事	25,700	19,300
その他	5,900	4,300
工事しない	241,500	128,700
割合(%)		
持ち家に居住する主世帯総数	100.0	100.0
工事した ¹⁾	14.7	18.5
階段や廊下の手すりの設置	5.5	6.6
屋内の段差の解消	3.5	3.4
浴室の工事	7.0	8.3
トイレの工事	9.1	12.2
その他	2.1	2.7
工事しない	85.3	81.5

1) 複数回答であるため、内訳の合計とは必ずしも一致しない。